

KENZAI NAVI Journal



窪田 茂

JCD 日本商環境デザイン協会理事長
Designs J.P代表

「空間デザイン」の可能性を極める
日本から世界へ
商環境デザインの歴史、伝統、文化を担うリーダーとしての役割



PROJECT STORY
建材ナビ
出会いと創造

斬新な発想と卓越した技術の融合から生まれた
新世代インテリア素材

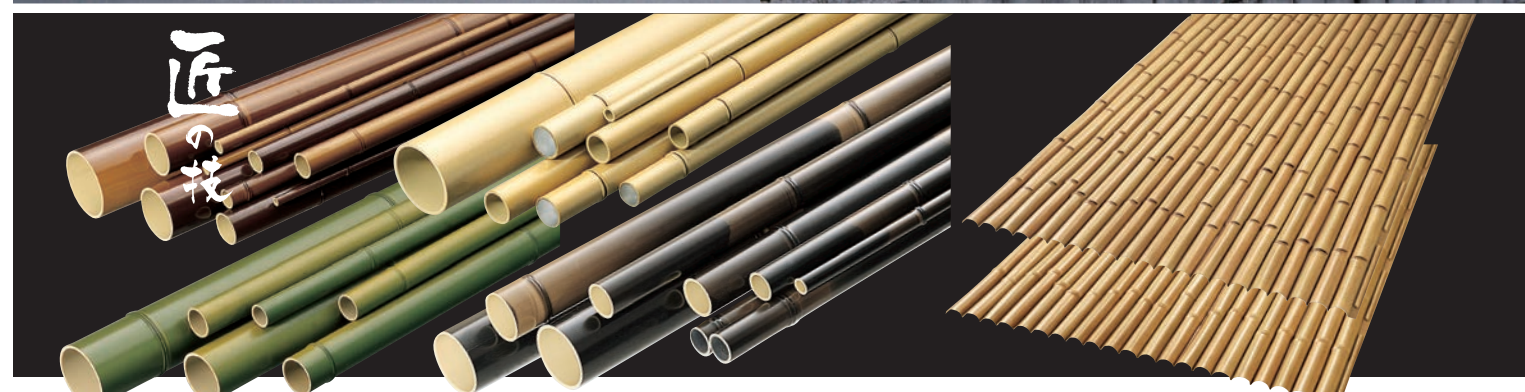
いざ、凛として優しい
竹組み・杉編みの光天井が
いざなう「天空の茶室」へ、

KENZAI NAVI Journal 〔建材ナビジャーナル〕 vol.21 発行：株式会社アログラフ 〒160-0007 東京都新宿区荒木町 5-4 KUSAFUKA Bld.4F Tel.03-3225-3569



施工例：エイコー・ブラ竹（煤竹）をつかった大津垣と塀

施工例：エイコー・ブラ竹パネル（なごみ）で作った建仁寺垣



▲天然竹の濃淡を表現したブラ竹・エイコーポールは煤竹、青竹、さらし竹、黒竹などがあり、御簾垣や大津垣などデザインの自由度も高い製品です。

▲エイコー・ブラ竹パネルは煤竹、青竹、かや竹、かや竹ふし染め、イエローがありイメージの選択肢が豊富です。

EI-KO J-26
造園製品と最新の緑化製品
エイコー ガーデンエクステリア
プロ カタログ 〈J〉
(A-4 判本文216 ページ)

造園製品
人工竹垣・板垣製品、ウッドデッキ
アルミ支柱、支柱補助品
アルミチャンネル、アルミ胴縁・屋根
アルミボード、人工竹・板部材
各種ビス・関連製品、ユニット製品
人工庭門・木戸・袖垣
扉セット・門扉、ラティス
ガーデンライト
エイコーストーン F
人工樹木、人工葉材・関連製品

カタログのご請求 山一屋がご提案する造園製品・緑化製品・石材砂利等を満載したカタログをそろえています。お電話またはホームページからご請求してください。

現場作業の効率化ができます。

エイコー プレ・カット出荷
エイコー オーダー・ユニット制作



伝統美を愛する 造園・緑化の未来へ

株式会社 山一屋

〒640-0454 和歌山県海南市別院522
Tel.073 (488) 0331 Fax.073 (486) 0515
e-mail / info@yamaichiya.co.jp
<https://www.yamaichiya.co.jp/>

EI-KO N-18
天然素材造園製品と緑化製品
エイコー ランドスケープ
ガーデニング カタログ 〈N〉
(A-4 判本文224 ページ)

造園製品
ユニット式竹垣、天然素材の垣根、庭門袖垣、
木戸、枝折戸、カケヒ、すだれ 他
造園資材
棕櫚縄、根巻・幹巻テープ、枕木・杭・丸太、天然
竹、孟宗竹、萩、長穂、銘竹、窓 他
造園用具
ロープ、モッコ、スリング、アルミ三脚、ゴンドラ、
運搬車、鋸、電動バリカン、鉄、ショベル、掛矢 他
緑化資材
デザインサポート、ワイヤー支柱、樹木地下支
柱、ガーデングレート、壁面緑化、屋上緑化シス
テム、人工土壌、防草材シート、遮光ネット、灌水
システム、人工芝、木材加工製品 他
建築石材・砂利・瓦・燈籠

天然素材造園製品と緑化製品
エイコー ランドスケープ
ガーデニング カタログ 〈N〉
(A-4 判本文224 ページ)

造園製品
ユニット式竹垣、天然素材の垣根、庭門袖垣、
木戸、枝折戸、カケヒ、すだれ 他
造園資材
棕櫚縄、根巻・幹巻テープ、枕木・杭・丸太、天然
竹、孟宗竹、萩、長穂、銘竹、窓 他
造園用具
ロープ、モッコ、スリング、アルミ三脚、ゴンドラ、
運搬車、鋸、電動バリカン、鉄、ショベル、掛矢 他
緑化資材
デザインサポート、ワイヤー支柱、樹木地下支
柱、ガーデングレート、壁面緑化、屋上緑化シス
テム、人工土壌、防草材シート、遮光ネット、灌水
システム、人工芝、木材加工製品 他
建築石材・砂利・瓦・燈籠



ホームページで
カタログもご覧
いただけます。

KENZAI NAVI Journal

2023 vol.21
CONTENTS

SPECIAL INTERVIEW

04 日本から世界へ 「空間デザイン」の可能性を極める

商環境デザインの歴史、伝統、文化を担うリーダーとしての役割



10 MANUFACTURER 新たな時代に適応する解決策を、多様な選択肢から

12 創業より培った板金・金属加工の技術とデジタルテクノロジーの融合

株式会社ヒラミヤ

14 おすすめは、水と電気だけでつくる、地球にも人にもペットにもやさしい疑似暖炉AFIRE

株式会社マストレ

16 「もったいない精神」から生まれた循環型製品のロールモデル、NUNOUS®(ニューノス)とは

セイショク株式会社

18 PROJECT STORY 出会いと創造 — プロジェクトストーリー —

20 斬新な発想と卓越した技術の融合から生まれた新世代インテリア素材

浜新硝子株式会社×藤川貿易株式会社

22 いざ、凛として優しい竹組み・杉編みの光天井がいざなう「天空の茶室」へ

株式会社竹六商店×株式会社新潟ヒロカデザイン事務所

24 Architect 建築家の見る光景 — 「人と建物」が紡ぐストーリー —

26 日常的に人が知覚している事象や原理を形態として視覚化

玉上貴人 | タカトタマガミデザイン株式会社 (略称 TTAD)

28 空間の豊かさや、創り上げる楽しさを分かち合える家づくりを

下田恭子 | 株式会社下田設計

30 Information 建材ナビ & かたなび

ONREI



エコ床暖



🔍 床暖房 全館冷暖房 両立

🔍 予算 選べる 空調システム

🔍 蓄熱効果 24 時間稼働 必要なし



日本から世界へ

「空間デザイン」の可能性を極める

商環境デザインの歴史、伝統、文化を担うリーダーとしての役割



JCD 日本商環境デザイン協会理事長
Degins JP 代表

窪田 茂

くぼた しげる
1969年東京生まれ。
2003年、窪田建築都市研究所(有)を設立。
2023年4月、Degins JP(株)へ社名を変更。
建築からインテリア、プロダクトなど幅広く、
企画、プロデュース、デザインを行う。

一般社団法人
日本商環境デザイン協会
03-6277-4813



商環境デザイン領域に
携わるクリエイターが
集うJCDとは

秋葉 本日は貴重なお時間ありがとうございます。早速ですが、まず「JCD」とはどのようなところからお話しいただきたいのですが。

窪田 JCDは、日本商環境デザイン協会という名前の団体ですけれど、その名の通り、商環境、つまり店舗やインテリアなどのデザインに関わっている人たちが正会員となって集まっている団体です。特徴的なのはどちらかというと、フリーランスで独立をしているデザイナーが多いことです。

ほかの団体ですと企業に属しているデザイナーも多いのですが、JCDはフリーランスが多い分、独特で個性的な人たちが集まる団体といえます。

秋葉 それでは、窪田さんが理事長として活動されている中でのJCDへの思い入れなどがあれば、お聞かせください。

窪田 JCDは1961年創立なので、今年62年目になります。……デザイン団体としてはかなり古い方であり、それだけずっと歴史が続いて来ているのですが、当時はインテリアデザインという言葉もなく、「店舗設計家」とか「店舗屋」などと言われた時代でした。それでも、そのころから店舗や商業施設などにデザインが必要に

もともと、JCDのメンバーは皆で集まり、イベントで盛り上がるようなことが大好きだったので(笑)。

日本最大級アワード

「日本空間

デザイン賞」を創出

秋葉 そうですが、コロナの影響と言ったら語弊がありますが、全国の支部間の連携が深まったというのは、良い側面でした。それでは、次にJCDの活動について詳しく伺いたいと思いますが。

窪田 はい、JCDの活動のメインは、やはりデザインアワードですね。

現在はインテリアデザイン系の団体であるDSAと組んで開催している「日本空間デザイン賞」という大きなデザインアワードの運営です。

それまではJCDもDSAも長きにわたりそれぞれの名前でデザインアワードを開催していましたが、ある時、今日本を代表するデザインアワードとは何だろうかというのを考えたときに、DSAと組んで今までやってきたアワードを合併させて規模を大きくする案が浮上しました。

その方が日本にとっても海外の人たちにとっても、おそらく認知されやすくなるだろうということで、思い切って合併しようということになり、スタートしたのが「日本空間デザイン賞」なのです。

なり、それに応じて「日本店舗設計家協会」としてスタートし、今日まで、綿々と続いてきたというわけです。今はグローバルな時代になり、この長い期間の間に商業デザインという分野が盛り上がり、主流となつてきているということです。

そして、この流れを続けていくためのムーブメントとして、デザインの力みたいなものを世の中の人たちに伝えていくためにJCDという団体が非常に重要なポジションにあるのです。それを僕たちは、きちんと引き継いで歴史や伝統、

文化みたいなものを未来に繋いでいくという役割を持っていると思っています。

秋葉 SNSで、60周年のイベントなども拝見させていただいたのですが、すごい歴史の積み重ねがある取り組みなのだなと……。

窪田 そのころは、コロナ禍の影響でイベントは1年延期になりましたけれど。現在JCDという団体は全国で10支部あり、各支部に支部長がいるのですが、その支部同士の連携というのはそれまでやや弱かったのです。

東京の僕たちがいるところが本部で、関東は関東支部があり、地方支部を合わせて全国に10支部あるのですが、コロナになって活動できなくなった分、オンラインでのミーティングや会議みたいなものができるようになったので、全国の支部の人たちとの連携も、実



JCD60周年記念式典+記念講演 一般社団法人 日本商環境デザイン協会は2021年に創立60周年を迎え、各地で記念イベントが開催された。

窪田理事長が代表を務めるデジnz ジェーピー株式会社 (Degins JP Inc) にてインタビュー



合併したことにより、「日本空間デザイン賞」はアジアで最大と言ってもいいほどの規模のデザインアワードとなり、ここで賞を取ればそれなりの権威があるということを、国内外に発信されるような仕組みづくりをしました。その結果、今はドイツの iF デザインアワード[※]という世界 3 大アワードと言われるアワード



2019年、一般社団法人 日本商環境デザイン協会 (JCD) と一般社団法人 日本空間aデザイン協会 (DSA) それぞれのデザインアワードを合併。日本最大級の空間系アワードが誕生した。

とパートナーシップ契約をし、「日本空間デザイン賞」で入賞したら、iF デザインアワードの 2 次審査から参加できるという特典が付くようになります。

それで応募した人たちがドイツで多くの賞を取るようになり、日本のデザインを世界に届け、情報を発信していくことが JCD の大きな活動

の一環ともなっています。

未来のデザイナーに デザインの芽を 育む活動「SODA」

秋葉 アワードのほかには、どんな活動をされていますか？

窪田 それ以外にはいわゆるトークイベントやシンポジウム、勉強会などです。また、大きな取り組みとして、全国の小学校を中心に子供たちに店舗デザインの体験を通して、デザインの楽しさを伝える「SODA」という活動もしています。

「SODA」というのは、See of Design Award の略で、子どもたちにデザインの芽を育てる意味を込めたものです。

SODA は正規授業枠内での授業として、JCD の正会員や、賛助会員の人たちが授業をやってほしいという小学校を訪れます。小学生たちに幾つかのグループに分かれてもらって、そのグループごとに自分たちが考える未来の店舗もしくは自分たちがやりたい店舗、こんなお店があったらいいなみたいなことをテーマに模型を作ってもらいます。それを最後にプレゼンテーションしてもらってというところまで 4 時間ほどです。

そこに使う材料というのが賛助会員から集めた、いわゆる本当に

内装とか建築に使う材料を集めてきて、それを使って模型を作ってもらいます。壁や床はスチレンボードで組み立てて、中に貼る仕上げ材は本物の材料を使います。最後に照明で雰囲気を出して、プレゼンテーションしてもらう。

それがすごく評判ですと毎年やっている学校もあります。全国の支部の人たちの活動としても、大いに盛り上がりつつあります。

秋葉 会員さん達と子供さん達との触れ合いも含めて楽しそうですね。そのほかの活動についても伺ってよろしいですか。

窪田 あと、シンポジウムはもう本場に今の著名な方々とか偉業をなされた方々、亡くなった方も含めて、その人たちのテーマでお話をします。これはこれですごく面白いです。

あとは JCD トークラウンジ、タカハシツキイチといって、若手を中心としたデザイナー達を呼んでトークイベントをやってもらいます。トークイベントや講演会等にあまり慣れていない人が多いのですが、優秀な方はたくさんいます。本当にみんな全然違う発想と考え方で、自分たちがこういうデザインをしているということとその場で発表してもらいますが、三者三様な内容で本当に面白いです。

こうした若いデザイナー達をそうやって引っ張り上げて有名にして行くと言ったら大げさなのですが、そういう手伝いができるのも



PRODUCT OF THE YEAR

賛助企業の優れた技術、デザインに基づく製品を、正会員の目で評価。受賞製品は、商店建築や NIKKEI DESIGN などで掲載される。

身を PR するお手伝いを JCD さんにやって頂けるのはいいですね。次に JCD の会員についてですが、正会員と賛助会員の協力関係は今後のように形になるといいでしょう。

窪田 賛助会員の方々は JCD の活動に賛同とサポートをしていただいております。本当に感謝しているのですが、願わくばもっともっと積極的に参加していただきたいと思っています。

もちろん、仕事として繋がるということもあると思うんですけども、デザイナーの近くにいて考えているのかということを知ることが、この JCD の活動に賛同とサポートをしていただくというのには多々あるもので、そういうのを聞くだけでも、本当は商品開発や何かのきっかけになるのではないかと思います。

それで、うまくいけば、そういう賛助会員の方々と JCD の正会員が組んで何か新しい商品を開発をする、シヨールームを作って



Soda委員会では子供たちに空間デザインを紹介しデザインの楽しさを伝える活動をしています。

JCD のいいところだなと思っています。

先日の展示会、ジャパンショップでも JCD はブースを持ち、「今注目される若手デザイナー 20 人展」

と銘打ち、自分を売り出すきっかけ作りになればということで、展示スペースをつくり、トークイベントを提供しました。

秋葉 若手のデザイナーさんが自

ブランディングをしていく、など、お互いにサポートし合うことで、Win-Win の関係というのが作れると思うのですよね。で、実際にそういうことをやっている人たちもいますし、僕もやっているんですけど、そういったことにより、正会員を使ってもらえるというかなと思います。

優れた技術、デザインを
備えた製品だけに
与えられる

「プロダクトオブザイヤー」

秋葉 JCD では毎年、賛助会員さんに向けた「プロダクトオブザイヤー」を開催していますね。

窪田 そうですね。プロダクトオブザイヤーは、アワードとして優れた製品に賞を与えるものですが、賞を取れなかったとしても、賛助会員さんからすれば、PR をするチャンスが増える。正会員からすると、自分たちが知らない情報がちゃんと届く、そんなふうに活用して頂ければいいかなと思います。

秋葉 JCD さんがこれから取り組もうとする活動などについてお聞かせください。

窪田 まずは、今までずっとやっている活動をこれからも継続していくこと、そして更に盛り上げて行く努力をすること。また、これまでは外部向けに発信して行くイベントなどが中心だったのですが、

※ドイツ・ハノーバー工業デザイン協会が毎年主催する、全世界の優れたデザインを選定するデザイン賞。アメリカの IDEA 賞、ドイツのレッドドット・デザイン賞とならぶ世界 3 大デザイン賞の一つ。

2



3

1



窪田様の会社 Degins JP (デジンスジービー株式会社) の施工実績紹介

- 1) LATTE GRAPHIC 武蔵小杉
1Fの店内は、中央を横断するように約8mのキッチンカウンターを配置。
- 2) HIYORIチャプター京都
トリビュートポートフォリオホテル
1階共有部のエントランス、レセプション、レストラン・バー、チャプターファクトリーの内装設計を担当
- 3) Aoi Teien
和歌山市内の結婚式場。「歴史や伝統を尊重・継承しながら、新たな創造をしていく」ことを空間コンセプトとした。



これからはもっと内部の人たちが楽しめる場づくりや会員同士のコミュニケーションを図るような改革にも取り組んで行きたいと考えています。そういう方向でJCD内部の承認は取り付けているのですが、皆さん普

段の仕事をしながら、JCD活動をボランティアでやっていますので、仕事の合間を上手く利用しつつ少しずつでも確実に進化させて行くのが、僕の役目だと思っています。



カウンターテーブルに場所を移して、リラックスした雰囲気でお話をお伺いしました。

会社の成長に伴う 社名変更で 業務の枠も大きく広がる

秋葉 最近の社名変更について、その理由や経緯などについてお話しください。

窪田 今まで窪田建築都市研究所という名前で行っていましたが、創業から20年目という節目で、いろいろなものを変えてみよう、トライしていくぞと思った結果、そうになりました。窪田建築都市研究所は古臭いけど、分かりやすくて良かったのですが(笑)

それにうちのスタッフもだいが育ってきたし、あえて僕の名前で仕事をしなくてもいいくらいに優秀な子たちが出て来ていて、窪田という名前ももうそろそろ要らないかなと思ったのと、建築都市研究所という建築やインテリア、街づくりに関わるために付けた名称が分かり易くはあるけれど、故に業務の範囲が制限されてしまう。

そんなことを何回か経験した上で、やはり名称を変更する必要があるという考えに至ったわけでした。その一方で、不動産業をずっとやってみたいと思っていたのですが、その理由として、周囲の建築デベロッパーさん達と一緒に仕事をすることで、不動産屋さんの理論でもの作りが進められることに度々ジレンマを感じることがあった。それはそのデベロッパーが悪い

という話をチームが受けることに。メタバースという仮想空間の中に作るミュージアムなので、本物の建築を作るわけではないのです。だから何の法律も制限もないものを作るので、自由過ぎちゃう(笑) その自由過ぎちゃうものを建築事務所がいかに取り組むのが課題なのですが、新たな考え方や要素などを取り入れる必要もあり、仕事としては面白くなってくるのかなっていう風に感じています。

だから、その設計と不動産とデジタルがうまく回るようになれば、色々なことにトライできるようになるので設計事務所単体としてやっているよりも、幅が広がるというのが一番ですね。窪田建築都市研究所という名前がDegins JP(デジンスジービー)になって、仕事の枠をぐーんと広げることができそうです。

秋葉 分かりました。ところで、私も「建材ナビ」では建築業界の更なる発展を目指して活動しているのですが、JCDさんとの新しい取り組みの方法などについてご意見を伺いたいのです。

窪田 そうですね、やはり「建材ナビ」さんには、JCDが主催する、例えば「プロダクトオブザイヤー」、「SODA」、各種イベントなどの活動へのご協力、情報発信などにご協力頂き、人々がお互いにふれあい、交流できる機会を創出して頂ければ、より良い関係性が生まれるのではないかと思います。

のではなく、社会の構造に起因しているからであり、例えば何か売るとか貸すとかということになった場合は、何LDKにしなければいけないとか、駅から何分かなどが価値基準になっており、それに合わせて価格が決まったりするわけです。素晴らしいデザインのものが出来れば家賃がちょっと高くなったり、それを流動化すれば、今までよりも高値で取引される可能性もある。やはりデザインがいい方がいい。

それなら、自分たちがデベロッパーになって、自分たちの考え方で戦おうという風に思い、マイクロデベロッパーぐらいの小さい規模から始めるのはありなのではないかと……。やるなら、今しかないという思いでチャレンジしています。

建築設計のチャレンジ、 デジタル化

秋葉 デジタル化への取り組みはどのように。

窪田 そうですね、リアルな業務である設計と不動産に加えて、今はデジタル化にも積極的に取り組んで行こうかと考えています。

世の中がどんどんデジタル化の方向に進んでいますし、設計業務自体も自動設計ソフトが生まれ、自分たちの設計図を描くという業務自体は減っていく可能性が大きいにある。AIが入ってくると、も

しかするとデザインという業務が奪われる可能性もあります。でも、だからといって悲観してもしようがないので、3Dとかデジタルの方にトライする場所を作ろうとって作ったのが今回のデジタルデザインチームです。



Degins JPは池尻大橋駅から徒歩5分。オフィスの側には目黒川が流れています。

メタバースとかWEB3.0とかNFTもそうですけど、今年はAIが話題ですが、去年や一昨年ぐらいからそういう話題が多くありました。

そんな中、たまたま、メタバースの中でミュージアムを作りたい

メタバースやNFTって何？

① メタバース

メタバース (meta verse) とは、ギリシャ語で「超越した」という意味を持つメタ (meta) と、世界を意味するバース (verse) を組み合わせて作られた言葉です。メタバースはインターネット上の仮想空間に作られた世界であり、ユーザーはその世界の中で、自分の分身「アバター」を自由に操作し、様々な活動を行うことができます。近年人気を集めている「あつまれ どうぶつの森」や「フォートナイト」のような自身でキャラクターを作成し、仮想空間で自由に操作できるゲームもメタバースの活用事例です。もちろん、ビジネス上でもメタバースはその存在価値を高めています。

② メタバースとVR

インターネット上の仮想空間に作られた世界そのものを指すメタバースですが、一方、VRは仮想空間をより立体的に体験するためのデバイスおよび技術です。VRの技術をメタバースに活用すると、メタバースの世界により溶け込んだような体験をすることができます。VRはゲームや体験型のアトラクションなどで多く活用されています。

③ NFT

NFTは「Non-Fungible Token」の略で、日本語では「非代替性トークン」と呼ばれます。NFTによって一般に所有者が不明とされるデジタルデータの所有を明確にし、偽造を困難にすることでデジタル取引の安全性を高めることができます。

出展：平成30年版 情報通信白書

二級建築士
取材：秋葉早紀
建材ナビ広報担当

今回の取材で、生活に潜む身近なデザインを改めて考えさせられました。デザイン団体として個性豊かなメンバーが所属。近々他のJCDメンバーにも取材をさせていただく予定です。



Interviewer



おすすめは、水と電気だけでつくる、

地球にも人にもペットにもやさしい

疑似暖炉 AFIRE

株式会社マストレ



創業より培った板金・金属加工の

技術とデジタルテクノロジーの融合

株式会社ヒラミヤ



「もったいない精神」から生まれた

循環型製品のロールモデル、

NUNOUS®(ニヌース)とは

セイシヨク株式会社

INTERVIEW MANUFACTURER

新たな時代に 適応する解決策を、 多様な選択肢から

建材メーカーのこと、建材業界のこと、製品はどのように生まれるのか、
施工実績がどのように社会に影響を与えるのか、ものづくり企業としての、苦
労や喜びなどの想いをたっぷり語っていただきました。
建材メーカーへのインタビューは、建材ナビのインタビューコンテンツ
「すまいリング」でも同時紹介しています。

SumaiRing



工業製品から建築空間まで。新しい金属加工のかたちや空間づくりを提案

創業より培った板金・金属加工の技術とデジタルテクノロジーの融合



代表取締役
平宮 健美
ひらみやたけみ

グラフィック工学科を卒業後、家業である町工場の板金屋に就職。幼少期に経験をした地域のお祭りでのイベント終了後の達成感が忘れられず、ものづくりの面白さや難しさを若者たちに伝え続けている。先人に感謝をして、最新の技術と組合わせたものづくりに日々挑戦中！



株式会社
ヒラミヤ
神奈川県川崎市
高津区久地3-4-1
044-811-5760

——メルセデスベンツ和歌山様のカウンターテーブルを作成されたプロセスとコンセプトをお聞かせください

建築事務所（施主）からのコンセプト・意匠・ご要望をカタチにするという大前提を基に次の3点を条件として作成に当たりました。
①メルセデスが表現するカウンターであるため、カウンターテーブルは、蹴とばしても凹まないこと。
②つなぎ目は、シャープであること。
③要素所に合わせた形状の変更が可能であること。

——どのような加工方法でしたか

加工方法は、次の3点です。
①ライノのグラスホッパーと手加工の金物加工技術を組み合わせたものづくり。
②3角1枚が約40

kg×4.5mmの鋼板の目地はピン角に仕上っている。⑤すべてを仮組することで、現場で組み立てが出来ないことは発生しない。
重厚で強靱なカウンターでありながらも、シャープで繊細なラインを表現出来ていることで、レストランにご来場されるお客様のメルセデスに対するイメージをカウンターテーブルが表現出来ていると感じています。

——この作品で、建築事務所さんがデザインアワードで金賞を受賞されたとのことですが

私たちを活用頂けたことで建築事務所が金賞を受賞出来たことは、私たちにとても嬉しいことです。ご依頼者の作品に掛ける思いをカタチに出来たことは、今回の受賞につながったと思います。

——これからのものづくりへの取り組みで大切なことは

私たちは次世代を担う人々と地球を守るために事業を営む企業として活動を続けます。

また、3D技術を活用したもののづくりによるムダの削減や廃材の再利用にも尽力しています。具体的な事例は比較をしていないので不明ですが、金属の廃材はすべて溶かして再利用するなど、余分な部材購入削減・人工時間削減・工期短縮・廃材削減を可能としています。

——食の循環を見直すという「大豆プロジェクト」について教えてください。

参画することになった背景として、自然栽培農家の方より大豆を栽培するにあたり、一番大変な作業が大豆の選別と聞き、機械化出

建築界の3D化に協力出来ればと考えております。

——将来のビジョンをお聞かせください。

私たちのコンセプトは、次世代を担う人々と地球を守るために事業を営むことであり、そのため

には、若者が面白いと興味を持ってもらえるものづくりの業務内容に変えていくことが必要と考えます。先人が今まで創り上げてくれた技術を基に、現在・未来を見据えて、これから進んで行くであろう方向性に向けて技術も取り入れて、手加工のものづくりとつなげて進んで参ります。



メルセデスベンツ和歌山
日本最大級の体験型ショールームのレストランにマッチするカウンター製作。直線を基調とする幾何学的なデザインは、ヒラミヤだからこそ実現できるアルゴリズムによる設計。
デザイン担当：デジンスジェビー株式会社 (Degins JP Inc.)

来ないかと相談を受けたことが最初です。

現在、全国北は北海道から南は鹿児島まで、無農薬や有機栽培をされている個人の農家の方たち11件に販売をしてきました。まだまだ、自給率向上にはお役に立っていませんが、販売をしてきた現地の農家の方たちは、それぞれの地域で色々な取り組みをされており、人間として地球に存在する価値を有効に活かさないかと考えるきっかけを頂ける方たちばかりです。

——地域に密着したものづくりのエキスパートとして心掛けていることは

まず第一に、差別のない職場環境づくりを目指しています。人は



大豆選別機

収穫した大豆を、そのまま食用として販売する大豆、加工用として利用する大豆、肥料として利用する大豆に分ける機械



3Dスキャナー

従来の方法では困難だった現場の測定・作図が、高い精度で可能に。また測定漏れによる再測定がないので、時間やコストのロスを防ぐ。

——新たに導入する3Dスキャナーの機能や特徴は

まず、コンパクトで軽量、天井裏でも測定が可能。点群処理も綺麗な仕上がりが特徴です。すでに3DCADを活用したもののづくりに取り組んでいますが、これからは必要な空間をすべてデジタルデータで保存すること、必要な時に、必要なデジタルデータを活用して、建築業界のものづくりに活かし、更に建



地域コミュニティとの交流

地域住民に向けたオープンファクトリーやイベントへの参加など、ものづくりの楽しさや創造性を次世代の人たちに伝えることで地域産業の活性につながることを目指す。

嗜好性の高い全てのユーザーに個性的な意匠建材を提供

Manufactory

おすすめは、水と電気だけでつくる、地球にも人にもペットにもやさしい疑似暖炉AFIRE



AFIRE 内蔵の水タンクを超音波振動により微細な霧を発生させ、LEDモジュールで照射することで炎のように振る舞う新しいインテリア

— 貴社の企業理念、信条、などをお聞かせください。

当社マストレは「感動と笑顔のために」というキャッチフレーズの元、お客様へ期待以上のサービスを提供し、喜ばれる企業を目指しています。

私たち海外事業部は、およそ50年前の創業時から存在する部署で、インテリアやエクステリアの業界でロートアルミアンやロートアルミ、輸入照明、輸入家具の会社、というイメージを持っていたというお客様が多いのですが、地元の浜松市ではマストレといえばTHE不動産屋さんというお堅いイメージの会社です。

また、グループ内には工務店や医療機器の販売会社、医療法人があったり、過去には農業や飲食業にトライしてみたり。当然失敗する事業もあるのですが、お客様に

喜んでいただける事なら、何でも事業化してトライしてみよう！という、社員の私が言うのも何ですが、グループで千数百人規模の、そこそ大きな企業体でありながら、ベンチャー魂を持ち続ける面白い企業かと思っています。

当社のロートアルミ製品の特徴は、型材をビス止めしたり、嵌めたりして作っていく大手アルミメーカーの製品とは異なり、アルミの無垢材やパイプ材を曲げたり、叩いたりしながら加工して、溶接でくっつけていくという、昔から世界中で鍛冶屋さんが作っていたロートアイアンにかなり近い製法で作するため、フルオーダーで1つ1つ違うデザイン、寸法の製品を本物指向のお客様にもご満足いただけるクオリティーで製作できます。

Proudly made in Japan! ですし、フルオーダーと高額になりそうな文言

が並んでいます。ですが、そこその価格帯で実現できているのも採用率の高い要因かと思っています。

— 貴社の一押しの製品を具体的に教えてください。

最近の一押し製品は、AFIRE（エー・ファイアー）ですね。昔、当社で薪ストーブを輸入して販売していたのですが、最近ではタワーマンションに住まれる方も増えて、煙突が付けられないため自宅に暖炉は欲しいけど設置ができないので、諦めているというお客様が増えました。

そこで、疑似暖炉や煙突不要のエタノール暖炉などが代替候補に挙がっていたのですが、小さなお子様や高齢のお客様、ペットを飼っているお客様が実際の火で火傷やケガをされるリスクを考慮して水と電気しか使わない、この製品に

たどり着きました。

AFIREは超音波振動で水道水を微細なミストにしてから放出し、ミストにLEDの光を当てて炎のホログラムを作り出す装置です。設置環境にもよりますが、本物の炎と見間違っほどのリアルな揺らめき、人にもペットにも、環境にも優しい安全性を兼ね備えます。店舗のアイキャッチにも使っていたのですが、ずっと見ていられる系のリラクゼーション効果は、ぜひ実機を見てご体感いただきたいです。

東京では2カ所、京橋と日本橋に実機を展示させていただいておりますので、ご興味のある方は、ぜひお問い合わせください。

— 製品を開発する際の信念、こだわり、コンセプトなどお聞かせください。

普遍性と安全性という2点は重点的に意識しています。デザインにおいては流行り廃りが極力ないような、たとえば数百年前からずっと



ロートアルミ手摺

オーダーメイドならではの、現場に合わせた自由なデザインとサイズでオーナー様の要望に応える。

— 製品の予想していなかった使われ方とかがございますか

AFIREは当初「安全でどこ

— 企業としての今後の方向性や在り方、将来への展望などをお聞かせください

AFIREは1.5mのモデルで6000mlの水が入るのですが、20時間かけて空にするという事は1時間あたり300mlの水を空気中に放出しています。これは8畳用の加湿器と同等の加湿能力です。で、そういった意味でもお役に立てるのかと勉強になりました。

— 企業としての今後の方向性や在り方、将来への展望などをお聞かせください

まだ詳細は決まっていますが、これまでの輸入ビジネスで世界中にビジネスパートナーができたので、今度は昨今の円安をチャンスと捉えて、日本の文化や想いというソフトウェアを工業製品というハー



A-FIRE 従来の燃料式暖炉と違い、必要な燃料は水のみ。赤外線リモコンで炎の「強さ」と「速度」を8段階調整が可能。

ドウェアに乗せて、海外へ輸出できたらと考えています。当社は過去に、海外進出や輸出系のプロジェクトを立ち上げては失敗してきましたが、物流やWEBの発達で世界との距離はハードウェア的な意味でもソフトウェア的な意味でも、非常に近くなっていると感じています。陶磁器の緩衝材として使われていた北斎の浮世絵がヨーロッパで大人気になったり、シリコンバレーで伊藤園さんのおいしいお茶が流行ったり、我々が普段何気なく接しているプロダクトが意外なところで受けたりますので、海外へ向けて地道にアウトプットして、時流に合ったお客様に喜んでいただけるサービスの構築を目指して参ります。



海外事業部
太田裕樹
おたゆうき

浜松市出身。IT 関連の仕事で富士市や沖縄県への転勤を経てきたITターン組。
AFIREやINSIGHTといった新製品群の営業担当

株式会社
マストレ
静岡県浜松市
南区卸本町33
053-441-5660

「もったいない精神」から生まれた 循環型製品のロールモデル、 NUNOUS®（ニューノス）とは

NUNOUS®（ニューノス）は、布の色や質感を損なわないアップサイクル方法を可能にすることで、「見えない大量の廃棄」を「美しく見える化」。見えない廃棄の存在を伝え、廃棄物と企業、人の新たな関係を結びます。

近年、世界的な規模で大量生産され、大量消費されるファストファッションの大流行などによる衣料廃棄の問題が大きく取り上げられるようになりました。日本における年間衣料廃棄量も100万トンにも及ぶことで深刻な環境負荷が懸念されており、廃棄衣料削減への解決策として、リユース、リサイクルへの取り組みが、関連業界に課せられた急務となっています。こうした環境問題の解決を目指し、独自の特殊技術により生まれた画期的な循環型製品がNUNOUS®です。

——新素材「NUNOUS®（ニューノス）」はどのようにして開発されたのでしょうか

布積層新素材「NUNOUS®（ニューノス）」開発の背景には、繊維産業の抱えている環境問題と、

廃棄する布が、「もったいない」から何とかして生かしたいという想いから。

染めた布の納品基準は日本では特に厳しく、「C品」とされた布は自社が買取の上、廃棄されます。布には複数の繊維が含まれるため、リサイクルが難しく、焼却処分にもなりません。生じる温室効果ガスは日本だけでも年間約12億tにも のぼると推計されます※1。C品の少なさで実績を上げてきた弊社でも約1%の布を廃棄しています。

本業である染色事業は布の産地や気象条件に左右され、多くの熟練工を必要とする繊細な仕事です。

「従業員が皆で一生懸命作ったものを、なぜ捨てなければならぬのか？もったいない」という想いからC品（出荷規格外品）を活かす道を試行錯誤すること2年。数百枚の布を重ねて固め削り出したところ、布の表情そのままに全

く別ジャンルの素材が現れました。「キレイじゃないか、これだ！」繊維業界の垣根を越えた瞬間でした。

——「NUNOUS®（ニューノス）」の製法と、特徴を教えてください

捨てられてしまう布を積み重ね、サトウキビの非可食部分由来のポリマーを含浸＋圧縮させる特許製法を使います。圧縮し、積層面に対して、水平にスライスすることでゆがみやたわみが美しい模様となって現れます。

木目や大理石の柄は布の厚みや織り柄が変わり、2つとして同じ柄が生まれない有機的な美しさを生みだし、建築やインテリア業界を中心に次々と採用されるようになりました。

※1 経済産業省生産動態統計年報 繊維・生活用品統計編より算出
※2 捨てられるはずの廃棄物を付加価値を付けて再利用し、新たな製品価値として生まれ変わらせること



HIASA LADIES CLINIC
デザイン・M/M 室谷丞一郎

NUNOUS®

表現できる点が強みになります。

——実際に使用された事例など教えてください

マンションやレジデンスでの壁面装飾が多く、オフィスや商業空間の什器・ディスプレイ・家具の天



上) 廃棄せざるを得ない布をお預かりしオリジナルNUNOUS®を作成。アートパネルとして生まれ変わった。
下) チェスト天板。積層したブロックを垂直にスライスすることで、通常と違った楕円柄も出せる



テルのベッドシーツ、企業ユニフォーム、アパレルの廃棄ウェアなど、1つ目の製品本来の役目が終わっても、オリジナルNUNOUS®の原料にすることで、それぞれに新たな美しさが現れ、自分たちの廃棄品を美しく蘇らせ自分たちで使うという循環の強いストーリー性を

板部などの表面材仕上材としても実績多数です。ホテルのヘッドボードやルームサイン、ランプシェードや、各種サイン計画の素材としても実績が増えており、使い方は建築士様やデザイナー様のアイデア次第に対応できますので、まだまだ用途が拡がりそうです。他の素



左) 環境新素材「NUNOUS®（ニューノス）」のブランドコンセプトは、「見えない大量の廃棄を美しく見える化する・廃材に新たな命を吹き込む」。
右) エレベーターホールに設置された「NUNOUS®（ニューノス）」。他にはない美しいアップサイクル素材。



百貨店やグローバルに展開するホテルへの導入や、アパレル分野の欧州トップブランドとコラボ商品のプロジェクトなど、業種の垣根を超えたSDGsを具現化する取り組みを進めている。



セイショク株式会社
代表取締役
姫井 明
ひめい あきら

明治大学卒業後、丸美屋食品工業株式会社に勤めたのち、セイショク株式会社入社と同時に田窪株式会社へ出向。2011年セイショク株式会社岡山工場へ赴任。2012年31歳で11代目代表取締役社長に就任。2012年末より新規事業部門を立ち上げ、NUNOUS®（ニューノス）プロジェクトがスタート。



セイショク株式会社
岡山県岡山市
北区中井町
2丁目8-7
090-4133-1229



— vol.13 —

Takeroku
株式会社竹六商店



Nigata Hirotaka Design
株式会社新潟ヒロタカデザイン事務所

竹という持続可能な天然素材を中心とした建築内装材の魅力を伝え続ける株式会社竹六商店の小田氏と、本物のデザインを通じ、地域への貢献ならびに文化の発展に寄与する株式会社新潟ヒロタカデザイン事務所の大竹氏のプロジェクトストーリー。

建築家と建材メーカーはどのようにしてマッチングに至ったか。プロジェクトはどう完結したか。建材ナビを通じて知り合った、建築家と建材メーカーの両者にインタビュー。知り合ったいきさつ、施工案件の内容、施工のコンセプト、材料の選定と提供など、現場のリアルをたっぷり語って頂きました。建材ナビのインタビューコンテンツ「すまいリング」でも同時紹介しています。



— vol.12 —

Hamashin Glass
浜新硝子株式会社



Fujikawa
藤川貿易株式会社

アパレル服飾小物雑貨と建材インテリアを中心に、卸・問屋業を行っている藤川貿易株式会社の秦氏と、基本素材のガラスに異素材のスパイスを加え、今までにない空間作りの可能性を提案し続ける浜新硝子株式会社の過能氏とのプロジェクトストーリー。

PROJECT STORY

建材ナビ

出会いと創造

メーカーと建築家の
ジョイントプロジェクト



「パークハイアットニセコHANAZONO」のチャペル

壁面、合わせ硝子扉として使用。このチャペルは、2022年の公益法人日本インテリアデザイナー協会選考事業インテリアスペース部門で入選を果たした。

斬新な発想と卓越した技術の融合から生まれた 新世代インテリア素材

が硝子を通す事によりその輝きが何倍にも増します。

2. 素材が金属ですので頻繁に手の触れる場所に設置すると、場合によってキズを付けたりする恐れがありますが、これが硝子に挟む事によってその恐れが無くなりました。

3. D社の生地は国内で消防法（不燃・可燃）を取得していません。故にこのまま壁張りとして使用できないのですが、合わせ硝子にする事によってこの問題をクリアできました。

―― 製品は、他にも有名ホテルにインテリアとして採用されていますね。

秦 D社の資材をお使い頂いた案件の一つに「パークハイアットニセコHANAZONO」のチャペルにて壁面、合わせ硝子扉として大きくご使用頂きました。このチャペルが2022年の公益法人日本インテリアデザイナー協会選考事業インテリアスペース部門において入選を果たしました。日建設計で担当頂いた加々美様、千葉様には大変お世話になりました。このような弊社資材をお使い頂いた案件が受賞するというのは初めての事ですので、もし少しでもお役に立てたのであればこれほどうれ



PROJECT STORY
建材ナビ
出会いと創造
メーカーと建築家の
ジョイントプロジェクト
Vol.12

アパレル服飾小物雑貨と建材インテリアを中心に、卸・問屋業を行っている藤川貿易株式会社の秦氏と、基本素材のガラスに異素材のスパイスを加え、今までにない空間作りの可能性を提案し続ける浜新硝子株式会社の過能氏とのプロジェクトストーリー。金属生地と合わせ硝子を融合した製品の誕生秘話や、有名ホテルで採用されたことなどについて語って頂きました。

Hamashin Glass
浜新硝子株式会社

Fujikawa
藤川貿易株式会社

―― 今回の設計を手掛けることになった経緯を教えてください。

秦 浜新硝子様との出会いは2016年に初めてJapan Shop展に出展した際、ブースにてお名前刺交換させて頂いたのが始まりと記憶しています。当時は合わせ硝子のアイデアは全く無かったのですが、後日お客様からの御依頼で硝子加工先を探していた時のことです。何社にもあたったのですが、「この様な変わった素材は難しい」「保障出来ない」と言われ続ける中、浜新硝子の過能社長だけが「もし何か問題があれば全面的に協力します」と言ってくださったので、安心してお願いする事が出来ました。勿論、何度も試作、テストを繰り返して頂き、現在は全てお任せしております。

―― 金属メッシュと硝子の融合という斬新な素材について、その特徴と優位性を伺いたいのですが。

秦 ドモドソーラの金属メッシュ資材は、そもそも110年前の創業時に電球のフィラメント材を取り扱っていた事から始まります。D社は様々な素材を編み込み生地（イントレチャート）として長年、世界的アパレルブランドのバックやシューズなどに資材として提供してきました。その中でお付き合ひのあるCHANEL社から「金

―― 採用されたインテリア資材へどのような感想をお持ちですか。

秦 私はインテリア資材と並行してアパレル資材も担当しているのですが、やはりお使い頂いた資材が何年・何十年と残るという事は、特に移り変わりが早く、半年ごとに販売しているものが入れ替わるアパレルの世界では中々ない事なので感慨も一人です。

何年、何十年か後、ふと訪れた場所で「実はこれ私が販売したモノなんです」と言えると思うとワクワクします。

―― 藤川貿易様とのコラボ製品はどのようなにして生まれたのでしょうか

過能 ご依頼のあった製品は、イタリアのドモドソーラの金属メッシュを、合わせガラスの加工技術を用いて製作する「金属メッシュ合わせガラス」です。

イタリア本国でガラスと組み合わせせた製品があり、そのアイデアを藤川貿易様が日本で形にできないかを試行されていました。その際に弊社にもお引き合いを頂いたのがきっかけでした。

―― 他のガラス加工メーカーから、難しいと言われた技術とのことですが、どのようにご対応されたのですか。

―― 今回の設計を手掛けることになった経緯を教えてください。

秦 浜新硝子様との出会いは2016年に初めてJapan Shop展に出展した際、ブースにてお名前刺交換させて頂いたのが始まりと記憶しています。当時は合わせ硝子のアイデアは全く無かったのですが、後日お客様からの御依頼で硝子加工先を探していた時のことです。何社にもあたったのですが、「この様な変わった素材は難しい」「保障出来ない」と言われ続ける中、浜新硝子の過能社長だけが「もし何か問題があれば全面的に協力します」と言ってくださったので、安心してお願いする事が出来ました。勿論、何度も試作、テストを繰り返して頂き、現在は全てお任せしております。

―― 金属メッシュと硝子の融合という斬新な素材について、その特徴と優位性を伺いたいのですが。

秦 ドモドソーラの金属メッシュ資材は、そもそも110年前の創業時に電球のフィラメント材を取り扱っていた事から始まります。D社は様々な素材を編み込み生地（イントレチャート）として長年、世界的アパレルブランドのバックやシューズなどに資材として提供してきました。その中でお付き合ひのあるCHANEL社から「金

―― 採用されたインテリア資材へどのような感想をお持ちですか。

秦 私はインテリア資材と並行してアパレル資材も担当しているのですが、やはりお使い頂いた資材が何年・何十年と残るという事は、特に移り変わりが早く、半年ごとに販売しているものが入れ替わるアパレルの世界では中々ない事なので感慨も一人です。

何年、何十年か後、ふと訪れた場所で「実はこれ私が販売したモノなんです」と言えると思うとワクワクします。

―― 藤川貿易様とのコラボ製品はどのようなにして生まれたのでしょうか

過能 ご依頼のあった製品は、イタリアのドモドソーラの金属メッシュを、合わせガラスの加工技術を用いて製作する「金属メッシュ合わせガラス」です。

イタリア本国でガラスと組み合わせせた製品があり、そのアイデアを藤川貿易様が日本で形にできないかを試行されていました。その際に弊社にもお引き合いを頂いたのがきっかけでした。

―― 他のガラス加工メーカーから、難しいと言われた技術とのことですが、どのようにご対応されたのですか。

STYLE GLASS(浜新硝子株式会社)

代表取締役社長
過能史光 (かのう しんご)
我々のコンセプトは「ガラスの料理人」。基本素材のガラスに異素材のスパイスを加え、様々な加工と言う名の調理法で今までにない空間作りの可能性をご提案いたします。

福岡県柳川市田脇 213-1
TEL:0944-72-6877

過能 弊社はこれまでに多くの案件に携わり、合わせガラス加工の技術を培ってきました。

そうした長年の経験から、薄いものから厚いものまで、金属メッシュ生地の合わせガラス加工については、積み重ねた技術を駆使して対応可能となっております。

―― 今後ともコラボ企画は続けて行かれますか。

過能 はい、今後も藤川貿易様とは、ユーザー様の新しいご要望にもしっかりと応えできるよう、ご協力させて頂きます。そして「金属メッシュ生地×ガラス」のさらなる可能性を追い続けて行きたいと願っております。

属メッシュ資材をファサード用店舗内装材」としてご依頼頂いた事がインテリア資材の始まりと記憶しています。

金属編み物を生地として生産するメーカーはD社以外には、世界にも数社有るか無いという程です。さらに色を付けて小ロットでオリジナルのデザインが出来るという事を考えると、このメーカーが唯一無二ではないかと思っています。

また、この金属生地を合わせ硝子と融合するメリットとして、次のことが挙げられます。

1. 硝子との相性が非常に良いという事です。金属ですので照明によりかなり反射するのですがこれ

藤川貿易株式会社

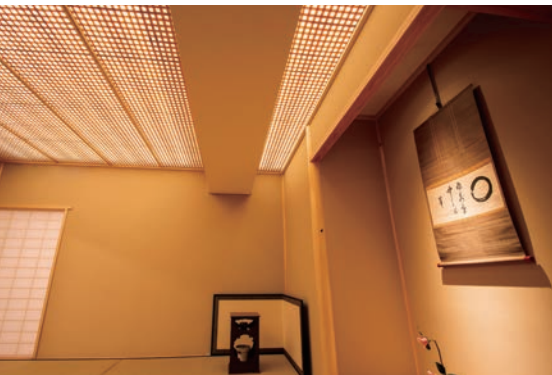
「浜新硝子の過能社長だけが、全面的に協力します、と言ってくれました。」

秦 専一 (はた せんいち)
アパレル服飾小物雑貨と建材インテリアを中心に卸・問屋業を行っています。マフラー、ネクタイ、サスペンダー、カフリンクスや装飾用生地、家具用生地を取り揃えております。各種OEMも承っております。

東京都港区赤坂6-4-19
サントミビル6階
TEL:03-5572-6670

21 | KENZAI NAVI JOURNAL vol.21

KENZAI NAVI JOURNAL vol.21 | 20



杉証四ツ目編ワロンシート貼 / 真竹晒竹竿縁
杉証単板を編み込み、裏面にワロンシートや垂れ防止棧を取り付けた仕様。竿縁の真竹晒竹は茶室空間をより際立っている。

PROJECT STORY 建材ナビ 出会いと 創造 メーカーと建築家の ジョイントプロジェクト Vol.13

竹という持続可能な天然素材を中心とした建築内装材の魅力を伝え続ける株式会社竹六商店の小田氏と、本物のデザインを通じ、地域への貢献ならびに文化の発展に寄与する株式会社新潟ヒロタカデザイン事務所の大竹氏のコラボレーション。新潟市街地中央に建設されたRC造のマンションの最上階に施主様の要望で設えられたのは、格調高い伝統文化の神髄ともいえる本格的な茶室でした。まさにこの「天空の茶室」を実現するまでの試行錯誤と出会いのストーリーをお二人に語って頂きました。

いざ、凛として優しい竹組み・杉編みの 光天井がいざなう「天空の茶室」へ

Takeroku
株式会社竹六商店

Nigata Hirotaka Design
株式会社新潟ヒロタカデザイン事務所

新潟ヒロタカ デザイン事務所

——今回の設計を手掛けることになった経緯を教えてください。

大竹 弊社が長年お取引をいただいていたクライアント様が、新潟市街地中央に10階建ての賃貸マンションを建設している最中のことでした。建物はRC造で7階まで打ち込み完了のタイミングで、10階の賃貸マンションフロアを計画変更し、オーナー居住空間と茶室を造る事になりました。建物の完了期日まで、残された日程は半年を切るという時期でしたが、弊社にその設計と施工を指名するとのお話を頂いたのです。茶の湯の造詣を期待された特命であり、大変ありがたいお話でした。

——茶室という特別な空間の設計にあたり、苦労した点はどこなところでしたか。

大竹 元来、弊社創業者は美術品蒐集以外にも、茶の湯に勤しんでおり、建築設計業務を志す者たちの必須の学びは、総合芸術の茶道にあるとの信条を持っておりました。そこで弊社では社員が、空間から作法まで「茶の湯」を学ぶ機会を得ていたのです。

そこで、今回10階の天空にマンション仕立ての茶室を設えるに当たり、流派が異なるも先人達の派生経緯、思想心情、コンセプトの復習などの基本構想から着手する

ですが、その中でも今回は茶室天井全面との運びだったのでどんな様相になるのか非常にワクワクしておりました。

施工後のお写真は雅かつ絢爛の様相を見せる反面、どこか奥ゆかしさとそこはかない趣も感じられる絶妙なバランスを演出いただいており、初めて拝見した際は驚きと感動で胸いっぱいだったことを記憶しています。

弊社が持ち合わせていないアイデアを見せただいたことは今後の提案に繋がる話ですし、事例として多くの方にご覧いただきたい内容に仕上げていただいたこと、本物件に協力できましたこと含め感謝の気持ちで溢れております。

——貴社の今後の展開、または将来の展望などをお聞かせください
小田 現在次のカタログである「ヴェルデV.O.18」の制作に着手しております。

そこには今回採用いただいた商品の掲載はもちろんですが、より豊かなラインナップを予定しており、その一つとしてこれまで製品群になかった「不燃網代」が追加されます。

不燃網代は一昨年開発に成功、当初は杉証単板が0.2mm厚と非常に薄いもののみでしたが、本年、杉証単板が0.45mm厚を用いた製品の開発に成功し国土交通大臣認定を取得いたしました。

これにより現場継加工が可能となり、より汎用性高く多くの場

でご利用いただける運びとなりました。

また0.45mm厚単板の場合、薄い不燃基材を使用しているため光を透過し、一部製品は今回の光天井のような間接照明としてご利用いただけることも可能です。

これから先は自然素材を扱う企業として、地球環境にも貢献できる製品開発やSDGsへの取り組み、中でもサステイナブルな素材である竹の活用を提案していくことで、多くの方に自然素材の良さを認知いただき、皆様によりお喜びいただける商品づくりに励んでまいります。

「竹六商店」さんの製品のうちに発見しました。

品格の高い、意匠性の高い、新しい和の伝統文化を表現、創出する「竹」と「和材」の仕様製品に眼を奪われました。実品を手にした訳でなく、カタログとサンプルを頂いた時点で確信し、とてもシンプルな構成の「杉証四ツ目編」を採用。続いて、小さな金物に本物の息吹を感じる、床周りの「数奇屋金物、花釘」も専門本手打ちを各種採用しました。

このように、釘一本手を抜けない部品である茶室空間において、全ての優品を備えておられる竹六さんとの出会いは幸運でした。また、今回は「建材ナビ」のサイトで、「茶道・茶室関連の造作・仕上げ材・建材」などで検索した結果、竹六商店様を知ったので、出会いの場を提供してくれた「建材ナビ」さんにも感謝ですね。

——施工後に感じたこと、感想な

どお聞かせください。

大竹 北山杉、霧島杉、松全目で床を組み、オーソドックスな聚楽色で壁を包む。極シンプルに腰張りもせず、茶道口を障子の太鼓襖、待合は立礼席に兼用。元々バリアフリーの階高設計で寸法不足や、また炬が切れるか、など数値との格闘でしたが、結果としては上手く仕込めました。

入口、水屋、お手洗いの配置と居住空間との結界、結節の考慮など、多くのことを学べた空間でありました。

簡素で、晴れやかで、伝統も醸し出せた茶湯空間が完成したと思います。

完成後、柿落としの初回にお招きいただき、お道具揃え、茶主のお点前に触れて、地域の茶の湯文化に貢献出来た事は大変満足しています。また、その機会を与えて頂いた施主様や仕様材料を提供してくれた「竹六商店」様にも、深謝いたします。

竹六商店

——今回ヒロタカデザイン事務所様に採用された製品について教えてください。

製品名：N.O.161
杉証四ツ目編ワロンシート貼
小田 国産の杉証単板を四ツ目柄に編み

込み、裏面にワロンシートと垂れ防止棧を取り付けた製品です。

「茶室空間の全ての備品を備えておられる竹六さんとの出会いは幸運でした。」



株式会社新潟ヒロタカデザイン事務所

取締役会長
大竹健一（おおたけ けんいち）
1975年（株）ヒロタカデザイン事務所 入社
1983年（株）新潟ヒロタカデザイン事務所 入社
2023年 代表歴任して現在取締役会長に就任

〒950-0982
新潟県新潟市中央区
堀之内南2-19-14
TEL:025-243-2828



株式会社竹六商店

販売促進課
小田龍太（おだ りゅうた）

竹六商店は竹をはじめとする建材の製造販売をしております。お問い合わせなどございましたらお気軽にご連絡ください。
SNSやブログを通じて多くの方に自然素材の魅力も発信しております。是非ともご覧ください。

〒521-1242
滋賀県東近江市稲室町3488
TEL:0748-45-0231



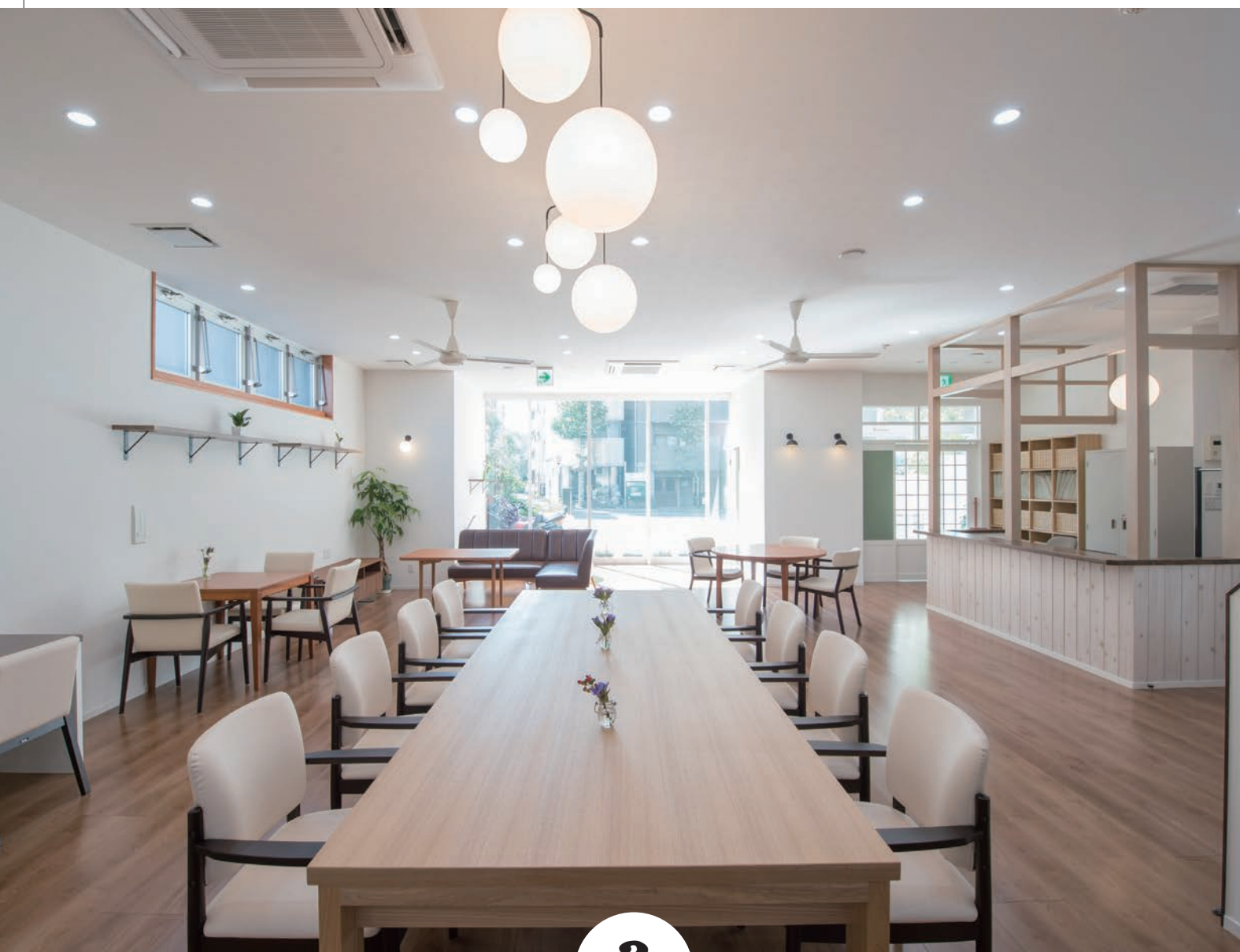
「茶室天井全面との運びだったのでどんな様相になるのか非常にワクワクしました」

建築家の見る光景

— 「人と建物」が紡ぐストーリー —

建材ナビのインタビューコンテンツ「すまいリング」でシーズン毎に取材している設計士へのインタビュー記事よりピックアップ。住宅、集合住宅、商業施設、公共施設などの施工に取り組む、設計士の体験談をお楽しみください。

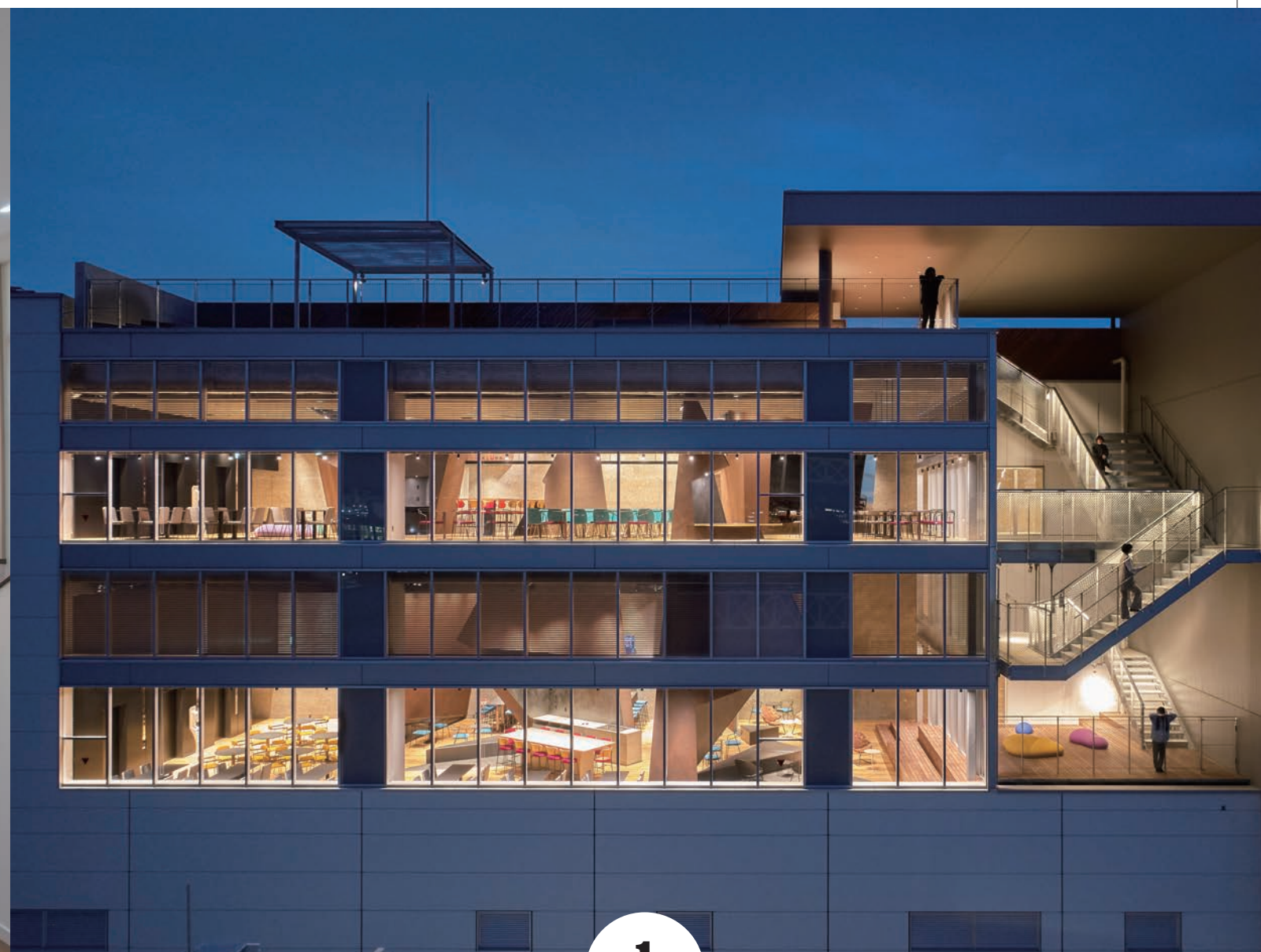
SumaiRing



2

空間の豊かさや、創り上げる
楽しさを分かち合える家づくりを

株式会社下田設計 | 下田恭子

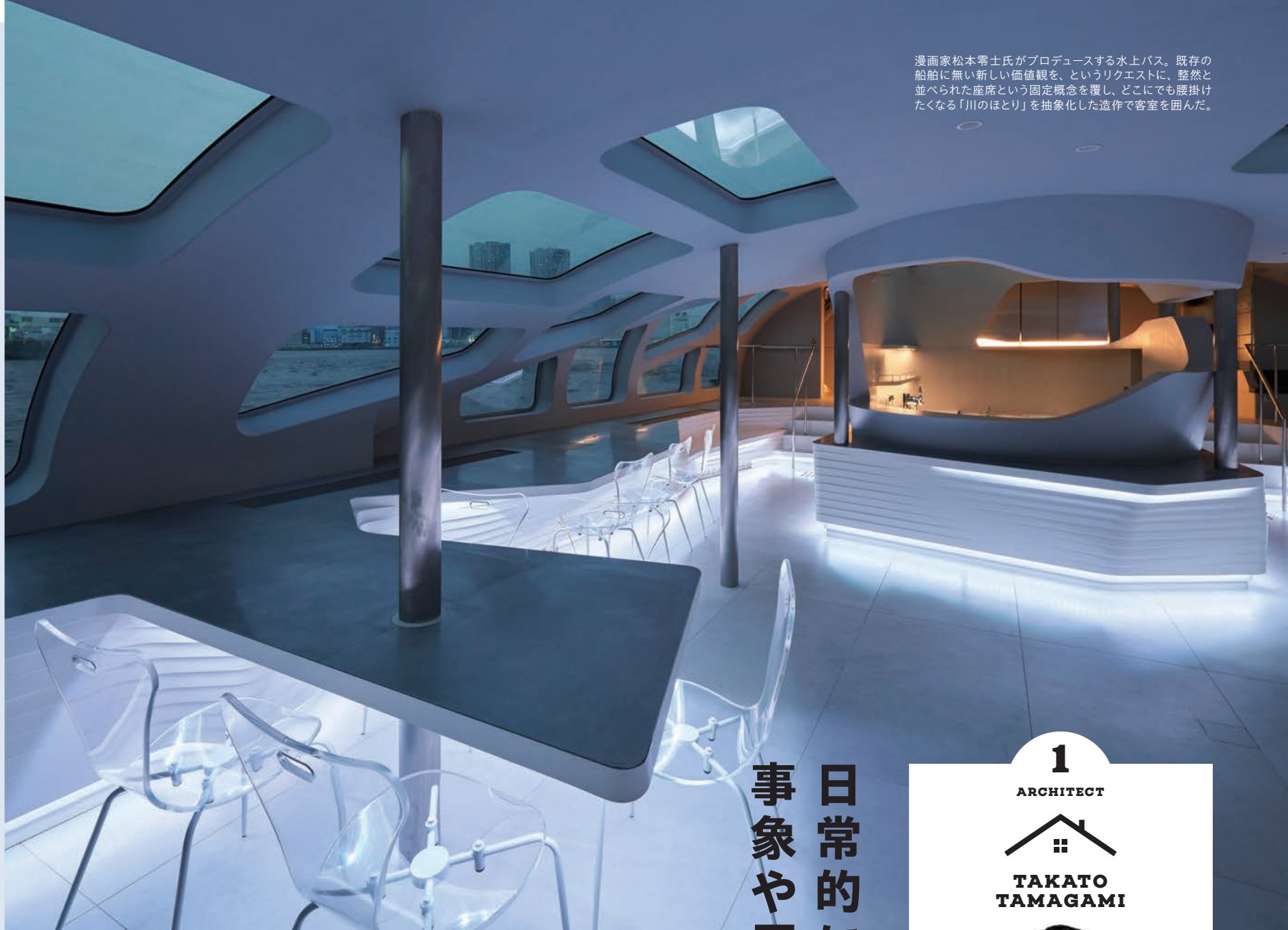


1

日常的に人が知覚している
事象や原理を形態として視覚化

タカトタマガミデザイン株式会社 (略称TTAD) | 玉上貴人

漫画家松本零士氏がプロデュースする水上バス。既存の船舶に無い新しい価値観を、というリクエストに、整然と並べられた座席という固定概念を覆し、どこにでも腰掛けたくなる「川のほとり」を抽象化した造作で客室を囲んだ。



日常的に人が知覚している 事象や原理を形態として視覚化

1

ARCHITECT



TAKATO
TAMAGAMI



一級建築士

玉上 貴人

1973年横浜生まれ。明治大学理工学部建築学科卒業。設計事務所勤務、ヨーロッパ各国を旅行ののち、2000年にタカトタマガミデザインを創業。2015年にはタカトタマガミデザイン作品集出版。使い手や場所の個性を空間や形態に反映させる作風が特徴。現在、日本大学理工学部で非常勤講師を兼任。

SMOKER'S STYLE COMPETITION最優秀賞 (2010年)
JCDデザインアワード2012銀賞 (2012年)
第13回きらりと光る北の建築 優秀作品賞 (2013年)
AICA施工例コンテスト 2019 優秀賞 (2019年)
日本空間デザイン賞 銀賞 (2019年)
第11回 スペースデザインアワード 部門賞 (2022年)

タカトタマガミデザイン
株式会社 (略称TTAD)
東京都渋谷区本町2-45-7
RENN Bldg
03-5365-1701



個性を打ち出す
強い表現を意識的に――

我々の担当領域は広いのですが、こうして俯瞰してみると、用途は違えど集いの場、憩いの場を設計していることが多いので、自然とそういう目的の空間の設計は得意になっていると思います。過去には喫煙所を複数手掛けたり、今は物流倉庫の休憩ラウンジやスキー場のレストラン、展望テラスなどを継続して手掛けています

設計者冥利に尽きる
直々の設計依頼とは

ここ数年で最も印象的だった仕事は、隅田川を運行する水上バス

デアをオンラインで共有できるツールはチームの円滑なコミュニケーションをするうえで、とても重宝しています。

3Dプリンターの
可能性に注目

今注目しているのは、5軸CNCや3Dプリンターです。複雑な形状や曲面の施工はいまだに施工者側の拒否反応が強く、過剰なコストアップや抵抗を受けることが多いのですが、5軸CNCや3Dプリンターの技術はそこを解決してくれる可能性があります。過去に苦勞して手がけたプロジェクトの造作なども今だったら5軸

CNCで容易に制作できたのでは、と思うことがあります。

共に作り上げて行く
姿勢が必須

熱心な施主には一緒に勉強するか、教えてもらうつもりで向き合います。必ずしも設計者は全てを知っている存在ではない、ということを知ってもらう必要があると思っています。与条件を統合していくのは我々の仕事ですが、施主と一緒に考えて共犯者のようになっっていくば、作り上げていく楽しさを共有できますし、失敗すらも共有し、次に活かそうという気持ちになれます。



大型物流倉庫の最上階の共用ラウンジ及び売店。自然の岩肌を抽象化した起伏は登りたくなる好奇心を駆り立て、洞窟状に包まれた空間は安心感をもたらす。

質実剛健、侘び寂びを美德とする日本人建築家が多くいるなかで、個性を打ち出す強い表現を意識的にすることで差別化を図っています。なにげなく日常的に人が知覚している事象や原理を形態として視覚化することで人の感情に働きかけるものを作りたいと思っています。

「水上バス」における
設計へのチャレンジ

松本零士氏デザインの未来的な船は隅田川を運行しています。東京の街を水上から眺めることはとても非日常的で唯一無二の体験です。タワーマンション群とガントリークレーンが立ち並ぶ埠頭の対比は、まるで人間の営みの表と裏を見るようで、東京の街から喜怒哀楽が溢れてきているように感じます。エメラルダスの設計ではこれを印象的な体験にしたいと思いました。

また、水面が反射するきらめきや、船が橋の下に入った一瞬の暗がり、そこに水上の移動空間ならではの面白さがあると思いました。

季節や日照、風、風景といった環境は建築の空間づくりに影響を及ぼしますが、移動空間においては目まぐるしく周辺環境が変化し

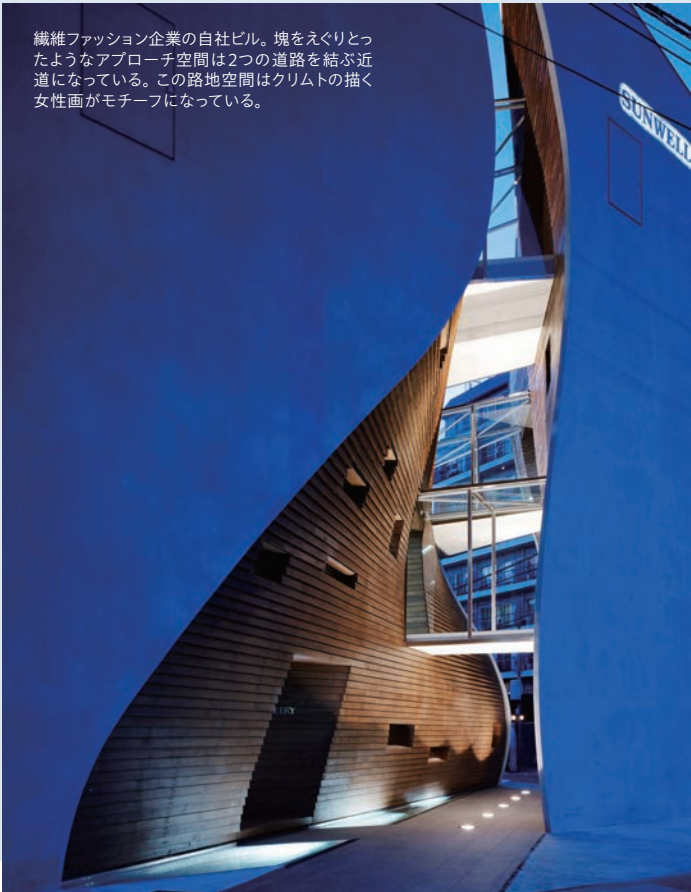
ます。そこに大きな違いを感じました。

船舶ならではの法規などもありましたが、法的、技術的、経済的なものを解決しながら作るのは建築も同じなので、苦勞はさほど感じませんでした。これはクライアントや施工者のサポートがあったのも大きいと思います。建築の設計経験がこんなかたちで求められ、そして活かせるということを知れたのは大きな収穫です。引き続き領域を横断した仕事には挑戦したいと考えています。

デジタル化への対応で
大きく変わったもの

BIMを二年前から導入しています。複雑な形態を設計することが多いため、3Dのモデリングデータを自動的に2D図面化してくれたり、様々な情報を集約することができるBIMは我々にとって有益でした。パースの作成にはリアルタイムレンダリングソフトを使っています。レンダリングに何時間もかけていた頃に比べ、かけている時間は雲泥の差です。又、コロナ禍あたりまえになったオンラインミーティングやクラウドサーバーの活用はもちろんのこと、Mirrorのようなアイ

繊維ファッション企業の自社ビル。塊をえぐりつつようなアプローチ空間は2つの道路を結ぶ近道になっている。この路地空間はクリムトの描く女性画がモチーフになっている。





東西に長い敷地形状を生かした長い平屋建ての建築。玄関ホールからリビング・ダイニングを超えて、個室までが一直線に見渡せる。軒を深く出し、水平方向に広がりを持った佇まいの和建築としたのも、その敷地形状から自然と導かれた。

この敷地形状を生かした「そこにしか存在し得ないもの」としての建築を施主はプレゼン図面から感じ取ってくださり、弊社を選定してくれました。

人さんの言っていることが理解できずに困ったこともありましたが、最近はずがに無いです。現場で納まりを検討しなくてはならない時などは、職人さんに教えてもらうつもりで積極的に問いかけ、コストを踏まえたうえで、「可能」ななかで最も「技術的に」高度な納まりを引き出すようにしています。職人さんも自分の技術が発揮できるのを心待ちにしている部分があるかと思っています。

そうすることで今回の設計意図を共有してもらい、「それゆえにこのような納まりを考えています。このように見せたい（表現したい）からです。」というこちらの考えを理解してもらいます。もちろん業者さん、職人さんからの意見にもしっかりと耳を傾けます。

設計依頼の中で印象的だったケース

知り合いから住宅の設計者を探しているという方を紹介され、ZOOMでの面接、ヒアリングの上、プラン提案をしたところ大変気に入っていただき、そのまま正式に設計依頼をいただきました。

弊社が提案したのは、東西に長い敷地形状を生かした長い平屋建ての建築。玄関土間から一歩上がると、玄関ホールからリビング・ダイニングを超えて、個室に続く廊下までが一直線に見渡せます。長くて奥行きのある豊かな空間を感じながら、大きく南へ開いた開口から四季折々の変化を感じて生活してもらうという設計意図です。

一般ユーザーへの家づくりのアドバイス

せっかくの家づくりですから、可能不可能は別にしても、自分の考えや要望は全て設計者に伝えてみてください。そのうえで設計者からの提案に耳を傾けてみてください。施主の要望を満たしただけのプランを作成することは、我々にとってはそう難しいことではありません。そこにプラスして、いかに住まう人々が楽しく、豊かな生活を送れるかについての提案が出てくるはず。自分たちが考えていなかったような「数値にして表せない空間の豊かさ」や「ともに創り上げていく楽しさ」を感じることが大切

ソーシャルメディアの積極的な活用

個人のSNSでも現場の工事中写真をアップすると、「いいね」が比較的多くもらえることに気づきました。みなさん「建築」がどう出来上がっていくかということに興味があるのだなあと感じています。やはり「設計監理」という業務はとても重要であると再認識しています。若手に担当してもらい、事務所のアカウントにて情報発信していきたいと考えています。

設計者という立場から、より俯瞰的にものを見る「建築家、プロデューサー」としての視点を持ちたいと考えています。

地域活性化と若手の育成に力を入れていく

一級建築士という国家資格と、培ってきた経験を生かしながら、まちづくりや地域活性化の一役を担えるように活動の場を広げていきたいと思っています。少しでも設計事務所を身近に考えてもらえるように、事務所内で家具や雑貨などを販売し、ふらりと入っていたいただけるような場所づくりを考えています。同時にワークショッップなど地域に開かれた場所づくりを計画

しています。

また、ドローンを活用した業務も視野に入れており、現在弊社には4名のドローンパイロットがおります。単純には建築の撮影や建物点検に利用し、いずれば上述したまちづくりや地域活性化のイベントなどに貢献できればと考えています。

今後の弊社の課題としては、「若手の育成」ということがあげられます。まずは建築設計という仕事により興味を持ってもらい、その魅力を理解し、自分たちの仕事は社会的にも誇れるものであることを知ってもらいたい。そのうえでノウハウをしっかりと伝え、資格も取りたいくなるような仕事環境を整えて行きたいと考えています。

やりたいことは山ほどありますが、確実にひとつずつ実行し、下田設計をよりよい会社にしていきたいと思っています。



よい家づくりは、「数値にして表せない空間の豊かさ」や「ともに創り上げていく楽しさ」が感じられることが大切



空間の豊かさや、創り上げる楽しさを分かち合える家づくりを

2

ARCHITECT

KYOKO SHIMODA

一級建築士

下田 恭子

弊社は創立40年を迎える建築設計事務所です。建築の計画、設計および監理業務を行いながら、最近ではホームインスペクション等の調査などもお引き受けしております。業務範囲は地元群馬県伊勢崎市を中心に、県内はもちろん関東近郊におよび、2007年からは東京事務所を置き、都内でも多くのお仕事をさせていただいております。

中でも医療や福祉関係施設の設計には、事務所開設当初から時代のニーズをとらえ力を入れてきており、個人経営のクリニックから地元伊勢崎市の医師会病院をはじめ、デイサービスや高齢者向け集合住宅など多くの物件を手掛けております。

「伊勢崎市景観まちづくり賞」や「ぐんまの家設計・建築コンクール」受賞、各種メディア掲載

株式会社下田設計

群馬県伊勢崎市連取町

2334番地10

0270-23-1431

「そこにしか存在し得ないもの」

建築設計において最も心掛けていること

施主の要望や、法的な順守は当然踏まえたうえで、敷地の位置や形状、その周辺環境などを読み取り、その敷地（土地、地域）だからこそ成立する特殊性を持たせるような計画をしています。

建築が長期にわたり使われ続けていくためには、性能もちろんですが、最終的には、使い手いかにその建築を「好き」になっもらうか、愛着をもってもらうかということになってくると考えます。愛着が湧けば大切に使うことができます。

現場で施工者と設計意図を共有する

若いころは経験不足ゆえに、職

「施主にとって唯一のもの」は愛着が湧き、また、そのような考えで建てられたものは地域に根付きやすく、使い手はもちろん、地域の人々にも大切に使われ続けていくと考えます。

異なる用途の建築設計で得たノウハウをまた別の建築設計へとフィードバックしながら、より使いやすく、美しく、クライアントの気持ちに寄り添った建物ができるよう、心掛けており、それが弊社の一番の特徴となっているかと思っています。

建材情報をトータル配信 じっくり調べたい

最新の建材ニュース、建材製品検索、製品動画やショールームの閲覧、業界記事、
設計士や建材メーカーへのインタビューなど、建材業界のことなら「建材ナビ」にお任せください。



建材の情報を
知りたい人は
こちらから！



<https://www.kenzai-navi.com/>

800社 18,000製品

カタログの探しやすさに特化 さくさく見たい

「かたなび」はカタログの探しやすさにこだわりました。最新の建材カタログがすぐ見つかります。
また選んだカタログはすぐ閲覧できて、他にも取り寄せや、相談・見積依頼も可能です。



建材カタログを
お探しなら
こちらから！



<https://www.kenzai-navi.com/webcatalog/>

4,600カタログ 20,000ギャラリー

建築建材に関するコンテンツが盛りだくさん



NEWS

新製品発売や、展示会の情報など業
界ニュースを閲覧できます。



PRODUCT

建材製品の検索、閲覧、取寄せ、
お問合せ等ができます。



MOVIE

動画で紹介している製品も
多数ございます。



SHOWROOM

メーカーショールームを紹介。
VRのショールームもあります。



INTERVIEW

設計士や建材メーカーの
取材記事を紹介しています。



ARTICLE

建材に関する役立つ記事、
業界のコラム記事等を紹介しています。



Q&A

製品や施工に関する悩みや
アンサーを投稿できるフォーラム



OUTLET

不要になった建材製品の
アウトレット販売をしています。

施工ギャラリーからでも探せます！

